

◆「連携を図ることで、多様化する生徒像を的確に把握する」

(進研ニュース VIEW21 1999.10)

つながる

今なぜ中高連携が必要か

教科指導の中高連携とは？

生徒の進路意識の接続——ほとんどの中学生が高校に進学する一方、高校進学に目的を見いだせない生徒が増加した。何のために学ぶのか、将来何をしたいのかを、中学校から継続して考えることが重要になった。

生徒の学習内容の接続——中学校における選択科目の拡大などを背景に、中学校での学習内容が必ずしも高校が期待するものではなくなりつつある。中・高双方が何を教えているのかを知る必要がより高まってきた。

2 学習教材の開発——高校への進学の機会に、不得意科目が生まれるケースがある。生徒がどこでつまづいているのかを分析し、そのつまづきを解消するための教材作りや教科学習指導などが、期待されている。

中・高の授業公開——中学校と高校では学習指導のスタイル、授業を進めるスピードなどは大きく異なる。お互いの授業の様子を知ること、授業の進め方の見直し、改善を図ることにも必要になってきた。

学習指導、進路指導の両面でよりの確な指導を実現するために、高校に求められている中学校との連携の在り方とは？

中学校と高校

進路指導の中高連携とは？

3 進路指導の共同研究——中学校と高校の進路指導の取り組みは一見似ているが、その深さは異なる。それぞれを取り組み内容を整理し、役割分担をより明確にしたり、進路指導の情報を共有化することも求められる。

学校生活を公開——高校の特色化が進む中、中学生にはより個々の高校の実状を理解した上で進学することが求められる。高校の授業や部活動の様子に触れ、高校生活をイメージするような場が必要である。

特集